

# 国道56号 改良

## 小黒ノ川急カーブ改良を

### 優先的に取り組む

#### 佐賀まちづくり課長

**問** 交通事故が多発している国道56号線小黒ノ川急カーブについては、十数年前国土交通省も必要性を認め、川沿いを通る直線ルートと、住宅の間を通る2つのルートを調査実施したとのこと。その当時は地権者の中に、用地提供に同意できない住民がいて、改良工事は立ち消えになった。しかし今は交通量も増え、交通事故が多発する中、住民も世代が替わり、地区民からは一致して改良工事の要望が強くなっている。区長からも積極的に取り組んで欲しい旨要望

がある。町は国、県へ強く要望を願う。

**答**

中島 佐賀まちづくり課長

平成11年9月地区要望として、多くの署名を添え、当時の佐賀町長、議長、部落区長などで急カーブ改良を国交省宛に要望書を持参、地元関係者とも協議を重ねてきた。予想される事業費は約9億円程度との事だったが、川沿いの直線ルートは、用地提供の合意が得られなかった。平成13年1月地区での協議に於いても家屋移転などで合意が得られず、実質的に中止となった。交通事故防止対策として、地区周辺の減速マークや表示等設置し、交通安全に努めている。政権が代わり公共事業に対し、益々厳しさが予想されるが、本件については今後重要課題として取り組んでいく。



かどた にわこ  
門田 仁和子 議員

# ガン予防

## 子どもに「ガン教育」を

### 病気の知識向上に努める

#### 教育次長

**問**

長寿大国日本だが、実は「ガン大国」でもある。しかしガンの正しい知識の普及は遅れている。先進各国と比較し、ガン検診の低さからも分かる。予防法、治療法も満足に知らない。相手をよく知らなければ、うまく聞えない。

歩は、予防法だ。重症化しないように早期発見が必要だ。昔ガンは不治の病と云われたが、早期発見さえ出来れば治る確立はぐんと高くなる。ともあれガンを知ることが、予防法や治療法を知ることだけではなく、死と向き合い限りある人生をどう豊かに生きるのか、こうした点を考えることが、今後のガン教育の取り組みについて問う。

**答**

坂本 教育次長

人間の体は約60兆個の細胞から成り、その内毎日数千億の細胞が死ぬ。その減った細胞を補うため、細胞分裂を行っている。また、健康な人の体でもガン細胞は一日5千個程度出来ている。しかし毎日免疫細胞により退治されている。ガンは多くの人が患う可能性のある身近な病気であるが、死をイメージさせるガンの話は聞きたくない雰囲気がある。普段の生活の中で死に直結するものを避けたい、いつまでも生きていられるという錯覚に陥っている。本来、命には限りがある。人は皆死ぬから命は尊い。この点が見失われている。ガン教育の第一

現在使われている教科書においてもガンについては、生活習慣病・予防項目の中で日本人の三大死因のトップであることなど様々な事例を挙げて、ガン予防をイラスト入りでわかり易く説明している。学校教育においては、ガンに限らず様々な病気についての知識を得ることが大切だと考えて取り組んでいる。



小黒ノ川急カーブ